

全視情協会員専用ページ 掲示板「点訳・点字」に
寄せられた点訳に関するQ & A まとめ

2009 年 10 月 27 日～2013 年 9 月 25 日

目 次

第2章 語の書き表し方

その1 仮名遣い

- Q 1 「・・・っっ」 と、点線と小さい「っ」がある場合は？ ・・・ 1
- Q 2 携帯電話のことをカタカナで「ケータイ」と表記してある場合は？ ・・・ 1
- Q 3 「たまう」の書き表し方は？ ・・・ 2
- Q 4 「由字子」は「ユーコ」「ユウコ」か？ ・・・ 2
- Q 5 固有名詞の仮名遣い（長音）について ・・・ 3

その2 数字

- Q 6 「百数十両」の「百」の書き方は？ ・・・ 4
- Q 7 「三十、四十分」、「三日、四日」はどう書くか？ ・・・ 4
- Q 8 「9・11」などルビが付いていない場合の日付の書き方は？ ・・・ 4
- Q 9 「四品」は「4シナ」？「ヨシナ」？ ・・・ 5
- Q 10 「震災7ニチメ。今日は七日目。」の書き方は？ ・・・ 6
- Q 11 『一頼（いっか）』は「いっか」？「数1か」？ ・・・ 6
- Q 12 党派名「国民の生活が第一」のイチは、数符？ ・・・ 7
- Q 13 クラス一、都内一、フランス一、三国一、世界一、日本一の書き方は？ ・・・ 7
- Q 14 三八式歩兵銃は数字？ ・・・ 8

その3 アルファベット

- Q 15 6 T E E N（16歳の意味だと思います）の書き方は？ ・・・ 8
- Q 16 Recdia(録音・校正ソフト)、PRS Pro、Ncc.imdn MP3はどう書くのか？ ・・・ 8
- Q 17 ギリシア文字が日本文中に出てきたときの書き方は？ ・・・ 9

第3章 分かち書き

その1 自立語と付属語

- Q 18 「彼はM大のOBらしい」はどう書く？ ・・・ 10

その2 複合語

- Q 19 「ワンダーフォーゲル」を「ワンダー□フォーゲル」と区切る理由は？ ・・・ 10
- Q 20 キーは、カー・マン・デーと同様前に続ける？ ・・・ 11
- Q 21 「235 中全」を「235□チューゼン」のように区切って書く理由は？ ・・・ 11
- Q 22 「はぐくみ育てる」「敬い拝む」「群がり飛び交う」は？ ・・・ 12

その3 固有名詞

- Q 23 ハンドルネームに「君」などが付いた場合は？ ・・・ 13
- Q 24 吉良上野介殿、大石内蔵助殿などは「殿」の前を区切って書いていい？ ・・・ 14
- Q 25 人名に続く「さん、様、君、殿、氏、氏（うじ）」について ・・・ 14

Q26 「金の星社」「萩の月」は「の」の後ろは続けるのか？	15
-------------------------------	----

第4章 記号類の使い方

その2 囲みの記号

Q27 会話文でカギの内側が空白となっている部分の処理は？	15
Q28 指示符類の使い方について（指示符を用いない例）	16

その4 その他の記号類

Q29 文中注記符を章の区切りで一括して記載した場合は？	16
------------------------------	----

その5 記号が連続する場合の注意

Q30 読点の後ろに第1カギなどの閉じ記号が続いてしまったら？	17
Q31 記号の連続する点訳 「新法の制定を目指して」（「骨格提言」）の書き方は？	18

その6 特別な配慮を必要とする記号類

Q32 （注：○○）のコロンはどうする？	18
----------------------	----

その7 体系の異なる点字表記

Q33 英文中での「&」の書き方は？	19
Q34 日本文中に英語で書かれた詩の書き方は？	20
Q35 数式の始まりは二マスあけるが、前に読点があっても同じか？	21
Q36 化学の問題の中の「m' 価」の表記は？	21
Q37 『点字理科記号解説暫定改訂版』（日本点字委員会発行）では「○□ガタ」？	23

第5章 書き方の形式

その1 本文の書き方

Q38 「行替え・行移し」の「処理2」の解釈の仕方について	23
Q39 行末処理について、行末10マスを目安に処理をしてよいのか？	24

その3 詩歌・戯曲などの書き方

Q40 書き出し位置に差がある詩の書き方について	25
--------------------------	----

その4 図や表の書き方

Q41 図表が2つ連続する場合の枠線の書き方について	27
----------------------------	----

その6 本文以外の割り付け

Q42 原本に見出しも目次もない場合の点訳書の目次は？	28
Q43 出版社の電話番号が複数ある時の奥付の電話番号の表記について	29

その他

Q44 「奥付が1ページで終わった場合は、裏ページの最初に改行マークを一つ入れる」とは？	30
Q45 点字の繰り返し記号（「リ」下がり）について	31

全視情協会員専用ページ 掲示板「点訳・点字」に寄せられた 点訳に関するQ & A まとめ

2009年10月27日～2013年9月25日

※ 『点訳のてびき 第3版』『日本点字表記法2001年版』『点訳のてびき第3版Q & A』『同 第2集』また、『点字表記辞典』などの書名は略記してあります。

第2章 語の書き表し方

その1 仮名遣い

《Q1》

「・・・っっ」と、点線と小さい「っ」があるときに、点線の②の点と区別しないと点線と同じになってしまいます。「・・・っ」「・・・っっっ」となれば、違いがわかりそうですが、こういう場合は、点訳者挿入符で促音符とか、小さい「っ」と書けばいいのでしょうか？

《A》

「Q & A」Q2にありますように、「原文で二つ以上連続して書いてあっても、点訳では長音符・促音符を二つ以上続けて用いることはしません。」

視覚的には何となくイメージしますが、実際には発音できないと思います。ですから、今回のご質問に関しても促音符は一つだけ書きます。どうしても促音符の数が問題になる場合は、点訳者挿入符で断ることになると思います。

《Q2》

最近、携帯電話のことをカタカナで「ケータイ」と表記してあることがよくあります。このような場合の点字表記について、「てびき」では、長音符号を用いて「ケータイ」と書くようになっておりますが、読み手側からは「点字の間違いである」と指摘されるかもしれません。

特に、同じ文の中で、漢字表記の「携帯」とカタカナ表記の「ケータイ」が混在しているような場合などは、そのような指摘を受けるように思います。このような場合はどのように処理をすればよいのでしょうか。

カタカナ表記の「ケータイ」の後ろに、点訳者挿入符で「カタカナ」とでも表記すればよろしいのでしょうか。

《A》

「携帯」は「ケイタイ」、「ケータイ」は「ケータイ」と、原文に忠実に点訳するのが、点訳の基本的な姿勢だと思います。

もし、「点訳の間違いではないか」との指摘があったら、「原文の通りである」ことを説明し、理解していただければ問題はないのではないのでしょうか？

点訳者の間違いと誤解を受ける恐れがあるからという理由で、「カタカナ」などと点訳者挿入符を付けるのは、読者に対して余計な負担をかけることになってしまうと思います。同音異義語や漢字の説明が必要な場合には、本文を中断しても点訳者挿入符が必要な場合がありますが、このケースは、点訳者挿入符が必要な例には当たらないと思います。

今回のケースに関わらず「点訳者の間違いと思われるのがいやだ」ということをときどき耳にしますが、上記のような考えで点訳に臨むのがよいのではないのでしょうか。

《Q 3》

「たまう」の書き表し方についてお聞きいたします。

「Q&A第2集」Q 8には、「たまふ」を現代仮名遣いに準じて書き表す場合、「たまう」「たもう」のどちらも考えられるとあり、「たまう」の方が語幹が明らかで活用が分かりやすいので、全視情協発行「点訳問題集2」練習5の解答では、「キミ□シニタマウ□コト□ナカレ」としているとあります。

「大辞林」や「広辞苑」などの辞書では、「たまう」の見出しに解説が載っていることから、受講者が「たもう」とした場合は誤りとして指導をしてまいりましたが、Q 8からすれば、「たもう」も誤りではないと判断してよろしいのでしょうか。

《A》

「給う」が現代仮名遣いで漢字で書かれている場合は「たまう」と読むのが一般的です。

現代仮名遣いで書かれている場合は、仮名で「たもう」と書いてあるか、漢字にルビがついている場合以外は「たまう」と点訳する方をお勧めします。

一方、歴史的仮名遣いの「給ふ」を現代仮名遣いに準じて書き表す場合には、「たまう」「たもう」のどちらも考えられます。

とくに作品によっては、慣習的に「たもう」と読んでいる場合も考えられますので「Q&A第2集」Q 8のような回答となりました。

「たもう」は絶対に誤りという一律的な判断ではなく、文脈や仮名遣いなどによってより望ましい読みを採用するように、講習会などで説明してくださるようお願いします。

《Q 4》

固有名詞の仮名遣いについて、「由宇子」は「ユーコ」でしょうか？「ユウコ」で

しょうか？「由宇」だけだと、「ユウ」だとおもうのですが、「由宇子」となった場合はどうなるのでしょうか？

《A》

「由宇子」さんは、仮名で「ゆうこ」と書き、発音は《ユーコ》で、ウ列の長音になりますので、「ユーコ」と書くのがよいと思います。

「由宇」さんも仮名で「ゆう」と書き、発音は《ユー》となるとと思いますので、「ユ一」と書くのが自然ではないでしょうか？

「美羽」さんや「麻宇」さんであれば「ミウ」「マウ」となります。

ただ、「友」や「優」「悠」ではなくて、「由宇」という字であることが問題になる場合もあると思います。その場合は、点訳者挿入符で字の説明をするのがよいと思います。

《Q5》

以前お尋ねいたしました件について、もう一度教えてください。固有名詞の仮名遣い（長音）についてです。

岩国市由宇町（ゆうまち）→ ユーマチ

東広島市西条町御菌宇（みそのう）→ ミソノー

と、なりますか？

発音を優先するということで良いのでしょうか？

《A》

地名も基本的仮名遣いに準じて書きますので、「ユーマチ」「ミソノー」でよいと思います。

「御菌宇」は「御園生」と同じ由来を持つ地名のようですので、「ミソノー」と書いてよいと思います。

ただ、「御園生」なら「室生寺」と同じですので、「ミソノー」と断定できますが、「御菌宇」は、少し引っかけります。

地元で、「ミソノ」のあとに、必ず、区切ってはっきりと「ウ」と発音されているなら、「ミソノウ」という書き方もあるかもしれません。

「御菌宇小学校」もあるようです。「ミソノー ショーガッコー」と発音されていますか？「ミソノ ウ ショーガッコー」と発音されていますか？

地名の点訳に役立ちますので、教えてくださいませんか？

《Q》 「御菌宇」について調べてみました。耳から聞こえるのは、「ミソノー」らしいのですが、発音される時は、みなさん意識して「ウ」を発音されているようです。なんだか不思議です。東広島市社会福祉協議会のみなさんや、地元の方々に

お聞きしてみました。

《A》 耳から聞こえるのは「ミソノー」と言うことですので、原則に従って、「ミソノー」と長音符を用いるのがいいと思います。というのが、点訳委員会の中で相談しました結論です。いろいろ調査していただいたのに、すみません。

点訳をしていると長音とか長音符はなじみがありますが、点字に関係していない方ですと、「う」と発音しますか？と問われたら「う」と発音するとお答えになるのが普通かもしれません。でも、長音に聞こえるのですから、やはり最後にウ列オ列の後に「う」が来るときは自然に長音になってしまうのではないのでしょうか？

原則に従って長音符にしておく方がいいと思いますが、いかがでしょうか？

その2 数字

《Q6》

およその数の書き方でお聞きいたします。先日ボランティアの方から、「百数十両」の「百」は数字で書くか、かなで書くかという問い合わせがありました。

「てびき」の「およその数 備考」に基づき「ヒャク□スーजूーリョー」と書くという解釈でよろしいのでしょうか。

《A》

この場合の「百」は、「数十」の上の位を表していますので、仮名で「ヒャク」と書きます。数字で「100」と書いてしまうと、一の位まで「0」と言うことになってしまい、「百数十両」の持つ意味と異なってしまいます。

なお、「スーजूーリョー」の部分は、「てびき」p21 5. の【備考】から数字で「スー ⠠10 リョー」と書くこともできます。

《Q7》

およその数について、最近、墨字で以下のような表記を見かけることがあります。点訳ではどう表記するのが適切でしょうか。

- ① いつも三十、四十分かかるのに7分で着いた。
- ② 今月は晴れの日が三日、四日しかなかった。

《A》

①②ともに、原文の通りに、「30、□40プン」「ミッカ、□ヨッカ」と点訳してよいと思います。

《Q8》

「9・11」「3・11」などにルビが付いていない場合の日付の書き方はどのようにすればよいでしょうか。

① $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 9 \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} \square \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$ $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 3 \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} \square \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$

② $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 9 \square \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$ $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 3 \square \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$

③ $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 9 \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$ $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 3 \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$

④ ②③の後に続けて点訳者挿入符で「きゅうてん いちいち」「さんてん いちいち」と書き加える。

《A》

「9・11」や「3・11」などと、原文で月日が略記されている場合は、中点を用いることはできません。 $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 9 \square \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$ 、 $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 3 \square \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11$ と書くのが一般的です。

「9・11事件」のようになれば、「てびき」p23 (2)より、「 $\begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 9 \begin{smallmatrix} \cdot \\ \cdot \\ \cdot \end{smallmatrix} 11 \square$ ジケン」と書いてよいと思います。

また、読み方を指定するようなルビが付いていないのであれば、わざわざ点訳者挿入符で読みを付けなくてよいと思います。

月日の書き方には、他の方法もありますので、「てびき」p62「年月日・時間などの書き方」も参照してください。

数字の読みの指定については、「てびき」第2章 p26の「コラム」も参考になると思います。

《Q9》

「Q&A第2集」Q13について、回答で『(前略) 途中から、5、6…と漢字音になる場合は、3から数字で書くことにしてよいでしょう』(中略) この基準を採用すれば、『4品』は『4シナ』… (以下略)」とありますが、「表記法」p22に「イツシナ (5品)」の用例があります。この例からすると、「4品」も「ヨシナ」「イツシナ」となるので、カナで「ヨシナ」と書いてもよいということでしょうか。

《A》

Q13は、「人によって読み方がバラバラなので、何かよい判断基準を教えて欲しい」というものです。確かに、和語読みにするか、漢字音で読むか、具体的な語句に当たるたびに迷いますので、そのようなときの助けとして、この判断方法を示しました。古風な表現で、和語読みを用いた場合は、「表記法」にもあるように「ヨシナ」「イツシナ」となるとは思いますが、現在では、漢字音で読んだ方が自然な感じがしますが、いかがでしょうか？

なお、蛇足ながら、「表記法」と「てびき」では、用例の示し方が逆になっており、「てびき」では、墨字を点訳した場合の表記が書いてあるのに対し、「表記法」では、点字で書いた例に対して、墨訳が載っています。「表記法」では、「五品」を「イツ

シナ」と書くことを勧めているわけではなく、和語読みした場合には「イツシナ」と書くことを示しています。

「てびき」の例の示し方 五十路 [イソジ]

「表記法」の例の示し方 イソジ (五十路)

《Q10》

原本に、「震災7ニチメ。今日は七日目。」とある場合、それぞれ「7ニチメ」「ナノカメ」と表記するのが正しいのでしょうか。

それとも、「7ニチメ」は和語読みに準じて「ナノカメ」と表記すべきでしょうか。

《A》

「日、日目」は、「いちにち(月の初めは、ついたち)、ふつか、みっか、よっか、いつか、むいか、なのか、ようか、ここのか、とおか」と読み、「第」がつけば、「だいいちにち、だいににち、だいさんにち・・・」となります。(『NHKことばのハンドブック』を参照しました。)

「震災7日目。今日は7日目」と原本に書いてあれば、点字では「ナノカメ」と書きます。

ただ、この原本にはカタカナで「震災7ニチメ。今日は七日目」と書いてあるとのことですので、カタカナで書かれているところはそのまま書くしかないと思います。「シンサイ 7ニチメ。 キョーワ ナノカメ」と思いますが、いかがでしょうか？

《Q11》

数を含む語の書き表し方について、お尋ねします。

『一顆 (いっか)』の書き表し方は「いっか」と「 $\cdot\cdot\cdot$ 1か」どちらになるのでしょうか？

意味は「丸く小さなもの一つ。一粒。」とあり、「表記辞典」に似たような言葉『一塊 (いっかい)』は仮名で表記、『一系 (いっけい)』は数字を使っています。

「てびき」や「表記辞典」には数量や順序を表す場合は数字で表記すると書いてありますがこれに当てはまるのかどうか、迷っています。一粒という数量を表すと判断してよいのでしょうか？

《A》

「顆」を国語辞典で引いてみますと、「大辞林」では

か【顆】(接尾) 助数詞。玉・果実など粒になったものを数えるのに用いる。

「1顆のルビー」「半顆のミカン」

と載っています。

他の辞書も同じような説明で「ダイヤモンド3顆」「幾顆の蜜柑」という用例が挙げられていますので、数字で「 ニ 1カ」「 ニ 3カ」と書いてよいと思います。

数字か仮名かは、文脈によって異なってくる場合もありますし、判断に迷う場合も多いのですが、数量や順序を表すかどうかで判断し、迷った場合は、数字の表意性を考慮して数字で書き表すのがよいと思います。

「一塊」は、「ひとかたまり」の意味で、「二塊、三塊・・・」とは数えないと思いますので、仮名で「イッカイ」でよいと思います。

「一系」も、「同一の血筋」という意味で、「二系、三系・・・」とは言わず、「万世一系」ぐらいしか用例が出てきませんので、仮名でよいという考えもあると思います。「表記辞典」では、「1、2、3、・・・」とは言わないけれど、「ただ一つの」と「一」を強調する意味で「 ニ 1ケイ」と数字を用いていると思われます。

《Q12》

党派名「国民の生活が第一」のイチは、数符を用いて書いてよいのでしょうか。

《A》

「国民の生活が第一」の「第一」は、順番を表す数字の意味が強いので、数符を用いて書いてよいと思います。

《Q13》

「表記辞典」に、次のような例が出ています。

- ① クラスーの美人 都内一の盛り場 フランスーのワインの産地
- ② 三国一 世界一 日本一高い山

上の例で、①では1の前を区切っていますが、②では続けて書いてあります。この違いはどこにあるのでしょうか。連体修飾関係があるかどうかなどでしょうか。

《A》

「表記辞典」の記載ですので、編集委員の方に問い合わせた結果をお答えします。

以前の版では、「日本一」「世界一」「三国一」も「クラスー」「都内一」もすべて続けていましたが、「クラスー」「都内一」「三河町一」「町内会一」などは、複合して一語になっているとはいいにくいので、「1」の前で区切ることにしました。

ただし、「日本一」「世界一」「三国一」は国語辞典にも掲載されていて1語としての結びつきが強いと判断したので、この3例だけはひと続きに書くことにしました。

《Q14》

三八式歩兵銃は数字で表記するのでしょうか。サンハチシキと表記するのでしょうか。サンパチ銃は「表記辞典」に記載されているのですが、サンパチ式となった場合はどちらになるのでしょうか。

また、六四式小銃（1964年式）、九九式小銃（皇紀2599年式）、二八センチ砲（28センチメートル砲）、38式野砲はいかがでしょうか。

《A》

「三八式歩兵銃、六四式小銃、九九式小銃、38式野砲」などは、1938年、1964年、皇紀2599年など、いずれも年を表しているようですので、一般には、数字で書いて、38シキ□ホヘイジュー 64シキ□ショージュー 99シキなどでよいと思います。また「二八センチ」も28センチのことですので、「 ニハチ 28センチ」となります。

ただ、「ロクヨン、ニハチ」などとルビが振ってあったり、読みを特定したいときには、「てびき」p26の「コラム」を参考にされるのがよいと思います。

64（ロクヨン）シキ□ホヘイジュー
となります。初出の時にこのように点訳すれば、次からは数字だけでもよいでしょう。

「サンパチシキ□ホヘイジュー」の場合は、8の読みが「パチ」と特殊な読みなので、数字を用いなくて、仮名だけで書くという考え方もあります。

「サンパチジュー」は、国語辞典にも載っていますので、仮名だけで表記してもよいと思います。

その3 アルファベット

《Q15》

6 T E E N（16歳の意味だと思います）は、どのように書いたらいいのでしょうか？全体を外国語引用符でくるんで、6を書き、二重大文字符のあとT E E Nとすれば、いいかなと思ったのですが・・・

《A》

「6 T E E N」は、外国語引用符で囲んで、 ニハチ 6 ニハチ T E E N ニハチ （6のあとに続けて、二重大文字符）と書いていいと思います。

小説のタイトルにも「4 T E E N」「6 T E E N」がありますが、「フォーティーン」「シックスティーン」と読ませたいようですので、全体を外国語引用符で囲むのが自然ではないでしょうか。

《Q16》

次の語は、外字符か、外国語引用符かどちらでしょうか？

Recdia(録音・校正ソフト) 英語辞典にないので外字符？

PRS Pro 略語と単語が混在しているので外引符？

Ncc.imdn MP3 ネットで拡張子とありましたがよく分かりません。

《A》

① Recdia(録音・校正ソフト)は、英語ではありませんが、メーカーが作った造語だそうです。略称ではありませんので、外国語引用符で囲んで書きます。

② 「PRS Pro」の PRSは、PLEXTALK Recording Software のそれぞれの単語の頭文字を取った略称ですので、外字符を用います。また、Proは英語で外国語引用符で囲むという考え方もあると思いますが、Professional(専門家向けの)の短縮形ですので、これも外字符でもよいと思います。

⠠⠠⠠⠠PRS⠠⠠⠠⠠Pro となります。

③ 「Ncc.imdn MP3」の Ncc.imdn は、デジ編集してできるファイルの一つを示すファイル名のようです。情報処理用囲み記号で囲んで書くのが本来の書き方ですが、特に情報処理用点字特有の文字(アットマーク、コロン、エンマーク、プラス記号など、外字符で書くことができない文字)も入っていないので、外字符を前置してひと続きに書いてもよいと思います。

⠠⠠⠠Ncc⠠⠠imdn

情報処理用囲み記号を用いて書くかどうかは、文脈や原文の内容で判断してください。MP3は、外字符を前置して書きます。

お答えは以上ですが、これらのソフト名やファイル名などは、文脈や原文の種類によって、特に取扱説明書などでは、凡例で断るなどして、すべて外字符で書くこともあると思います。

《Q17》

ギリシア文字が日本文中に出てきたときの書き方なのですが…。

『初歩から学ぶ英語点訳四訂版』p127の補則28の(b)の書き方を参考にすればいいのかと思ったのですが、英文中に書く時だけのものなのですか？

外国語引用符で囲んで、書き始めに外字符の⑤⑥の点を使用して書けばいいのか、わかりませんので、教えてください。

《A》

ギリシア文字が、原文にどのように書かれているのでしょうか？

前後の文字や語種によって書き表し方が異なってくると思います。

α 波 γ 線 β カロチンのように、日本語の中にギリシア文字が単独で出現した場合は、⑤⑥の点+④の点+該当のギリシア文字(αなら①の点)で書きます。

アルファベットとギリシア文字の組み合わせの場合は、「Q & A」 Q22を参照してください。

このような場合ではなく、日本文中に英文があり、その中にギリシア文字がでてきた場合は、英文全体を囲む外国語引用符のなかで、②の点を前置してから、該当するギリシア文字を書きます。ギリシア文字が大文字の場合は、②の点の次に大文字を付けます。「てびき」 p164も参照してください

また、文字ではなく、ギリシア語の単語や文がでてきた場合は、『初歩から学ぶ英語点訳四訂版』 p127 補則28 (b) を参照し、外国語引用符で囲んで、各語に文字符(⑤⑥の点)を前置して書きます。語句が4語以上の場合は、最初の語に文字符を二つ前置し、最後の語に文字符を一つ前置します。

第3章 分かち書き

その1 自立語と付属語

《Q18》

「てびき」 p34では、アルファベットで書かれた形容動詞「Basicな装い」も、助詞・助動詞同様区切って書いてよいとあります。これは形容動詞の場合のみですか。

「らしい」には形容詞の一部(接尾語)の「らしい」もありますが、上記の拡大解釈に入りますか? 「らしい」は助動詞と接尾語で読み分けて表記しますか?

例: 彼はM大のOBらしい。

彼は母校のOBらしい振る舞いをする。

《A》

「てびき」 p34の<処理>は、アルファベットの後ろに「な」「だ」等が続いて、形容動詞と考えられる場合に限定した処理です。

外文字を用いた語の後ろに助動詞の「らしい」が続く場合は、「らしい」の前を一マスあけます。ただ、「らしい」が接尾語(形容詞の一部)と考えられる場合は、「てびき」 p28の 2. 「一続きに書き表すべき1語中のアルファベットと仮名の間は、第1つなぎ符をはさんで続けて書く」のルールに従うことになります。

ですから

M_{..}ダイノ □ OB □ ラシイ

OB_{..}ラシイ □ フルマイヲ □ スル

になります。

その2 複合語

《Q19》

「Q&A第2集」Q43で「ワンダーフォーゲル」も区切るということですが、「ワンダー」はカタカナ語辞典にありますが、フォーゲルはありません。区切る理由は、原綴りとしてフォーゲル（vogel）という単語（ドイツ語）があるからでしょうか。

《A》

外来語の切れ続きについては、大分大会の分科会でも話題になりましたが、日常生活に外来語が占める割合は、「てびき」発行時より、さらに増してきているように思われます。

「てびき」p43の「コラム」では、国語辞典や外来語辞典で調査すると述べていますが、それらの辞典にない語でも、日常生活でよく使われたり、耳にしたり、また長い間のうちに日本語のようになじみのある語が多くなっています。

このようなこともあり、外来語辞典でも判断がつかない場合は、原綴りも判断基準に入れて、意味の理解を損なわない範囲で、区切って書くことをお勧めするという立場を取りました。関連して、外国の地名も、長い地名が一続きに書いてあり、どこで区切るのか分からないで読むよりも、原綴りから判断して、3拍以上の意味のまとまりが二つ以上ある場合は、その境目で区切った方が、読み手にとって分かりやすいという立場を取っています。

《Q20》

キーについて、これはカー・マン・デーと同様前に続けるようになったのですか。

《A》

キーは2拍の外来語ですので、複合名詞を作る相手の語によって切れ続きが異なってきます。「カー・マン・デー」と同様にするという扱いではありません。

Shiftキー・・・ Shiftは外国語引用符で囲みますので、Shift□キーでよいと思います。

ショートカットキー・・・全体で8拍になる長い外来語です。「てびき」に書かれてはいませんが、「ショート□カット□キー」と、自立可能な意味の成分である「3拍、3拍、2拍」のところで区切った方が分かりやすいでしょう。「表記法」p38にある「メリー□ゴー□ラウンド」と同じような例だと思います。「ショート□カットキー」ではなく、「ショート□カット□キー」となります。

録音キー・・・ 混種語で、「録音」が、3拍以上の自立可能な意味の成分ですので、「てびき」p45 <処理>に従って、ロクオン□キー

《Q21》

「Q&A第2集」Q48の答えの後半に「(前略)「235中全」のように数字が大きく

なると、「235□チューゼン」のように区切って書くことが多いようです。」とありますが、「数字が大きい」はあいまいなので、具体的にどのくらいの数字からと考えたらよいのでしょうか。たとえば、3桁以上の数字の場合は概ね区切って書いてよい、など。

《A》

Q48の後半は、Q47との関連でお読みいただきたいと思います。

数字が大きくなると、その数字があきらかに数量を表している場合は別ですが、数字が順序を表しているのか、または名称のように使われているのか判然としない場合が多くなります。そのような場合、数字だけでも自立可能な意味のまとまりと考えて区切って書くことが多いようです。

「表記法」や「てびき」にもルール化されていない部分ですので、Q47やQ48のような回答となりました。

原文やその語句によって、各施設・団体で判断してくださるようお願いいたします。はっきりしないお答えで申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

《Q22》

複合動詞ですが、「はぐくみ育てる」「敬い拝む」「群がり飛び交う」「侮り近づく」はすべてひと続きに書いてよいのでしょうか。

「はぐくみ育てる」は文脈によって判断してもよいのではという意見がございます。「群がり飛び交う」は「飛び交う」が複合動詞ですが…。

《A》

複合動詞は一続きに書くというルールがありますが、複合動詞のうち、動詞と動詞がつながっている場合は、辞書にあまり載っていないので、複合動詞かどうかの判断に大いに迷います。

ただ、複合動詞ですから、二つの動詞が合わさって一つの動作、状態を表していることが必要です。ということは、二つの動詞の主体が同じであって、時間的にかけ離れていない、動作や状態の方向が一致しているなどが目安になります。

また、二つの動詞が「～て（ながら）・・・する」のような一連の動作になっているかも判断の目安になることもあります。

挙げていただいた語でみると、「はぐくみ育てる」は、同じような意味の語の繰り返しで、動作の主体も同じと思われますので、一続きでいいと思います。

「敬い拝む」も「ある人が何か(誰か)を敬って拝む」のですから一続きでいいと思います。

「群がり飛び交う」は、例えば、多くの鳥が群がって、それから1羽1羽の動作として飛び交う訳ですから、群がりながら飛び交うことはできませんので、「ムラガ

リ□トビカウ」と区切って書くと思います。

また「侮り近づく」も「侮る」という態度・状態と「近づく」という動作は、時間的にも次元が異なるように思いますので、「アナドリ□チカヅク」と区切った方がよいと思います。

一般に、他の動詞の後について、複合動詞を作りやすいものは「合う、上がる、上げる、あわせる、いる、入れる、得る、落とす、終わる、返す、返る、掛かる、掛ける、かねる、切る、込む、去る、過ぎる、出す、立つ、立てる、付く、尽くす、付ける、続ける、出る、取る、直す、抜く、始める、張る、回す、回る」などの動詞です。

これ以外の動詞との結びつきの時には、文脈に注意しながら、判断に十分気を付けたいと思います。

その3 固有名詞

《Q23》

インターネット上において使用されているハンドルネームに「君」などが付いていた場合、ペンネームと同様に考えてよいのでしょうか。

現在、当館で製作しております小説に、インターネット掲示板を舞台にした物があり、「ザンギヤ君」というハンドルネームが出てきます。このような場合、「ザンギヤ□クン」と書いてよいのでしょうか。また、「ザンギヤ君殿」という表現も出てきますが、「ザンギヤ□クンドノ」としてよいのでしょうか。

《A》

「ザンギヤ君」と「君」まで含めてハンドルネームでしたら、「ザンギヤクン」は一続きに書きます。それに「殿」がつけば、「ザンギヤクン□ドノ」となります。

「ザンギヤ」がハンドルネームのときは、「君」が付けば、「ザンギヤ□クン」となります。

ゆるキャラについても、同じように考えられます。

「せんとくん」「とちまるくん」「ひこにゃん」「クマモン」などのゆるキャラがあります。これらの切れ続きについてです。

「せんとくん」「とちまるくん」は、「くん」まで含めて、キャラクター名のようなので、一続きに書いてよいと思います。

そのほか、「チーバクン」「おしなりくん」なども一続きでよいと思います。

ゆるキャラでも「ひこにゃん」「クマモン」などのように「くん」がついていないキャラクター名に「くん」が付いた場合は「ひこにゃん□くん」「クマモン□くん」のようになります。

《Q24》

人名や官職名の下につく「殿」などについて、吉良上野介殿、大石内蔵助殿などは、人名としてとらえて「殿」の前を区切って書いても良いのでしょうか？

それとも、やはり「上野介」や「内蔵助」は官職名なので、続けて書くのでしょうか？

《A》

「上野介」「内蔵助」の「介」や「助」は官名ですので、後ろに「様」や「殿」が続く場合は、一続きに書きます。

「キラ□コーズケノスケドノ」「オオイシ□クラノスケドノ」になります。

《Q25》

(1) 人名に続く「さん、様、君、殿、氏、氏（うじ）」について
「てびき」p54の【備考2】に、加代さん《本名 加代子》の例も加えて頂きたいと
思います。

(2) 今年度点字指導員講習会資料 p24時代小説中での「さん」について

A. 現在の名前が「おりき」であれば、「雪乃」も「おりき」もこの女性の名前と考えて「オリキ□サン」でいいと思います。 (略)

と、いうことから、女性名の「お～」は小説の最後まで本名が出てこない場合「さん」の前は区切ってよいと理解してよいですか。

おしんさん オシン□サン (最後まで「おしん」「おしんさん」)

オシンサン (文中で「しん」と名指しされている場合)

「お」の付く名前はすべて親称として続けてもよいのではないのでしょうか。

《A》

「さん」は接尾語ですが、人名に続いて用いられているときに、人名を浮きだせるために区切って書きます。原文で、その人の名前であると判断できたら、前を区切って書き、短縮形や愛称・親称だと思われたら一続きに書くということで処理をしていただきたいと思います。

その原本のなかで「おしん」と「おしんさん」の表現の使い分けがあり、それ以外に「しん」という名前が出てこないようであれば、「おしん□さん」と判断しているのではないのでしょうか？

「お」が付いていれば親称という場合は多いと思いますが、現在でも「お」がついて本名の方もおられますので、「お」がつけばすべて親称とは断定できないと思います。

(1)については、本名が「加代子」であれば、「加代さん」は【備考2】の例にある「ゴロ君」と同じように親称あるいは短縮形になると思います。

「てびき」の改訂は現在予定がありません。改訂がある場合には、全視情協の会員施設・団体に案を示して、ご意見やご希望を伺うことになると思いますので、その際にご提案くださるようお願いいたします。

《Q26》

「金の星社」「萩の月」ですが、「Q & A」Q80を参考にして、「の」の後ろは、続けるのでしょうか。

《A》

「Q & A」Q80では、「てびき」p56【備考1】について、回答しています。ここは、固有名詞の「地名・自然名」のところですが、「の」の後ろは、「川、関、浦、池、滝、島、宮、馬場」など、原則として、地名・自然名を表す普通名詞が来ています。

「金の星社」は、会社名、「萩の月」はお菓子の名前です。会社名は、「てびき」p56 6. のルールが当てはまります。

「主婦の友社」「金の星社」などは、「シュフノ□トモ」「キンノ□ホシ」に、会社名などを表す普通名詞部分の「シャ」が付いたと考えて、「シュフノ□トモシャ」「キンノ□ホシシャ」と一般に書かれていると思います。

菓子名は、普通名詞と同じように「ハギノ□ツキ」「カキノ□タネ」などと、「の」の後ろで区切って書く方が良いのではないのでしょうか？

第4章 記号類の使い方

その2 囲みの記号

《Q27》

会話文の書き方についてお聞きいたします。

以下の文で、カギの内側が空白となっている部分は、どのように処理すればよろしいのでしょうか。

「手先器用なほうがよほどいいじゃん」女子の一人、大和が笑った。

可絵子は椅子を引いて突っ伏した。「 」

「間倉さん、何かいった？」女子の一人、加賀美が振り向いた。

可絵子は返事をしなかった。

カギの内側は空白とするのが良いのでしょうか。それとも、点線などを入れるべきでしょうか。

《A》

このカギは、無言なのか、または何か言ったようだけれど聞き取れなかった状態だと思います。

このような場合、第1カギの中に点線を書くのがよいと思います。

句点の後、二マスあいて③⑥の点、また二マスあいて③⑥の点に来る形では、第1カギの中が空白ということが伝わりにくいと思います。

《Q28》

指示符類の使い方について

「てびき」 p 66 <処理>や点訳問題集3の例文13/16で、指示符を用いない例が書かれてありますが、原文で仮名で書かれてある場合に指示符は用いないと理解していいのでしょうか。点訳者はそのように捕らえているようです。また、「点字で読むのに不都合がないと思われるものに」と、「てびき」にあります。が、「不都合」とは具体的にどのような場合でしょうか。

《A》

墨字では、漢字がなく仮名が続いていると区切りが分かりにくくなりますので、そのような所に傍点が用いられる場合があります。点字では分かち書きをしますので、読むのに不都合はありません。

また、「そ撃」のように、一語の中の一字だけが、むずかしい、一般にはなじみのない漢字の場合も、その字だけを仮名にして、傍点をつける場合もあります。この場合も、点字では読むのに不都合はありませんので、指示符類は用いません。

ただし、傍点を付された箇所が仮名であっても、上記のような意味合いではなく、強調の意図があると判断できる場合などは、指示符類を使うこともあります。

その4 その他の記号類

《Q29》

文中注記符を使用した時、ちょうど章の区切りで一括して記載した場合、本文と同じページに入れる時は、端から端まで線を引き、本文と区別して入れました。そのあとの余白があれば、次の見出しをその余白に入れることはできるのでしょうか？ 次のページになれば、はっきり本文に変わることになっているんですよね？ 線の下は、あくまでも、注の説明だけと考えてよろしいのでしょうか？（見出しがあるから、本文だとわかるという人もいたので・・・）

《A》

文中注記符を付けた語句の説明については、その章や節の最後などに入れた場合は、「てびき」 p74 (4)を、そのページの下に入れた場合は、p75 <処理 1 >を参照してください。

章や節の区切り目に入れた場合は、注の説明を入れた後、行あけすれば、次の見出しに移ることができます。

なお、本文と注の間は、行あけにするか、両端のあいている区切り線を入れることもできます。

その5 記号が連続する場合の注意

《Q30》

読点を省略できない場合、その読点の後ろに第1カギ・ふたえカギ・カッコ類の閉じ記号が続いてしまったら、どうすればいいのでしょうか？

俳優の「藤岡 弘、」は読点まで芸名になります。

「てびき」 p82

2. 読点が他の記号と連続する場合

(1) 読点の後ろに、第1カギ・ふたえカギ・カッコ類の閉じ記号が続いて、他の記号と誤読される場合は、読点を省略する

なのですが・・・読点まで芸名だと、読点を省略できません。

「藤岡 弘、」『藤岡 弘、』のように第1カギ・ふたえカギであれば、第2カギに置き換えることで可能かなと思います。(点字編集システムの墨訳表記はおかしくなりますが)

カッコ類の閉じ記号が続いた場合

(藤岡 弘、)

どのカッコ類に置き換えても、誤読される恐れがあります。

どうしたらいいのでしょうか？

《A》

「藤岡弘、」の読点は、「てびき」や「Q&A」では、省略して点訳することをお勧めしています。

この読点は視覚的表現で、記号本来の用法とは言えません。

また、「藤岡弘、」さんと呼ぶときに、「ふじおか ひろし とうてん (または、ふじおか ひろし てん)」さんとは呼ばないようです。

第1カギ・ふたえカギ・カッコ類に囲まれているかどうかにかかわらず、読点は省略して点訳するのがよいと思います。

原文の文脈から、芸名に読点があることを説明する必要がある場合は、点訳者挿入符などで、一度説明をし、省略することを断ればよいと思います。

なお、他にも、「モーニング娘。」「K A B A. ちゃん」などの例もありますので、「Q & A」 Q120も参照してください。

《Q31》

記号の連続する点訳について教えてください。

「新法の制定を目指して」（「骨核提言」）が8月30日の
と言う文があります。この時に「」は連続して書いてよいのでしょうか？
点訳例文集解答編のEの符号の書き方の31に

しつつある。」□（「社会
とありますので、マスあけが必要でしょうか？
また、「」（{ のような時にはいかがでしょうか？

《A》

「新法の制定を目指して」（「骨格提言」）が8月30日の～
この例のカッコは、明らかに前の「新法の制定を目指して」の補足説明になりますので、一続きに書きます。

メザシテ::::コッカク□テイゲン:::ガ□～ と続きます。

二つ目のご質問は、原本で、カギ閉じ、カッコ開き、第2カッコ開き（または2重カッコ開き）と連続している場合を指しているかと思いますが、この場合も、連続していて他の符号と読み誤る恐れはありませんので、一続きに書きます。

「点訳例文集」は、全視情協発行ではなく、日本点字図書館発行の書籍と思いますので、疑問に思われる場合は、直接発行元にご確認ください。

その6 特別な配慮を必要とする記号類

《Q32》

文中のコロン・小見出し符について教えてください、
原本の文中に（注：○○）というようにコロンが使われていました。このコロンについて

「てびき」 p85

3. 墨字のハイフン(ー)・コロン(:)

(1) ハイフンやコロンは英語の記号なので、一般書の文中では、適宜日本の点字表記に置き換えて点訳する必要がある。

(4) コロンが小見出しを示すためなどに用いられている場合は、小見出し符類か棒線に置き換えるか、その部分を二マスあける。

このことから、二マスは分かりにくかったので、棒線に置き換えました。このとき「(4)の小見出しを示すためなど」と判断しましたが、小見出しではないのではないかという指摘を受けました。

「ハンドブック 第4章編」p67

（会長：浅田次郎）（英:Chutney）のようにカッコの中にコロンが用いられている場合、「てびき」や「表記法」の小見出し符類の用例と形が似ているので、第1小見出し符や第2小見出し符を使用する誤りが多く見られます。小見出し符類は3マス目から書く見出しに用いる記号ですから、このような場合には用いることができません。二マスあけなどに代えます。

この説明から、カッコ内であっても二マスあけに置き換える

→ 二マスあけまたは棒線と考えました。

点字の小見出し符類は3マス目から書く見出しに使われるものですが、たとえば、「てびき」の用例にある

資料：初めての点訳

これが文中で

（資料：初めての点訳）

となったら、小見出しを示すコロンとはとらえないのでしょうか？

文中の コロン（:）は二マスあけに限定すべきでしょうか？

《A》

（注：○○）（資料：○○）などに用いられるコロンは、二マスあけや棒線などに置き換えて点訳します。

ですから二マスあけに限定するものではなく、棒線を用いることもできます。

その7 体系の異なる点字表記

《Q33》

英文中での&の書き方ですが、andまたは、①②③④⑥の略字（⠠⠠⠠⠠⠠⠠）を使用する書き方がありますが、④の点と①②③④⑥（⠠⠠⠠⠠⠠⠠）を使用してもいいのでしょうか？

「Q&A」Q109には特殊な用法と書かれてあり、『初歩から学ぶ英語点訳』p129にも、特に明確に示す必要のある場合と書かれています。

英文中であっても、むやみに使用しないと考えてよろしいでしょうか？

《A》

英語点字の④の点を前置する記号は、その記号そのものを説明するときに用いるような特殊な記号ですので、「Q&A」Q109に書いてあるとおりの処理をお願いし

ます。

《Q34》

日本文中に英語で書かれた詩がある場合、どのように書いたらいいのでしょうか？

『英語点訳ガイド』には英文の詩の書き方などに触れることができなかったと、書かれてありました。英文の詩の書き方、参考になる本などを教えてください。

《A》

日本文中でも、英語の詩は、英語点字のルールに従って書きますので、以下不十分ながらお答えいたします。

英語の詩の前後は、1行あけるのが望ましいと思います。

『初歩から学ぶ英語点訳四訂版』（福井哲也著 日本点字図書館発行）p119 補足20に次のように解説されています。

詩は普通各行ごとに行替えして1マス目から書き始め、墨字の1行が点字の1行に入りきらない場合は、続きを次の行の3マス目から書く。

詩が普通の文章の形で書かれ、詩の行の区切りに斜線が書かれている場合は、点字ではそれを詩行符（③④⑤の点）で書き表す。詩行符の前後は一マスあける。詩行符が点字の行の最初または最後に来ても差し支えない。

また、日本点字委員会で英語に詳しい方にお聞きしたところ、本則である「English Braille American Edition」には、上のルールのほかに、次のようなことが記載されているとのことでした。

- ・連の間は1行あける。
- ・詩の途中でページが変わるときは、ページの下部・上部ともに、少なくとも（行移しされた部分を含んだ）詩の1行が残っていなければならない。
- ※しかし、詩のタイトルと、（行移しされた部分も含めて）1行目だけがページの下部に来る場合には、タイトルから次ページに送って書く。
- ・詩の中にマス下げがある場合は、2マスずつ下げて行き、行移しの際には、一番深いマス下げ+2マス分下げた所から書き始める。
- ・途中で終わったり始まったりしている詩の行を表す必要がある場合には、間に1マスあけを入れて、行頭または行末にダブルダッシュを入れる。

「字間をあけて書かれているところは3マスあける。」というルールもあるようですが、マス間を3マスあけるというのは日本の点字にはありませんので、二マスでよいのではないかというご意見でした。

《Q35》

日本文中の数式について伺います。

言葉を含んだ、下記の例のような式の場合、数式の始まりは二マスあけますが、読点があっても同じでしょうか。本来読点の後は一マスあけですが、どちらのマスあけが優先されるのでしょうか。

例：円の面積は、半径×半径×3.14で求めることができる。

点訳では次のどちらになるでしょうか？

円の面積は、□□（半径）×（半径）×3.14□で～

円の面積は、□（半径）×（半径）×3.14□で～

《A》

ご質問について、日点委の点字科学専門委員の方にも確認しましたので、お答えいたします。

質問の用例へのお答えは

円の面積は、□□（半径）×（半径）×3.14□で～
となります。

『点字数学記号解説 暫定改訂版』p21 第2部4. 1に「言葉を囲むカッコから始まる数式は2マスあける」とありますので、（半径）の前は二マスあけです。

一般文章中で、「読点があっても二マスあけ」というところが気になるところです。

日本語文中の読点の後の一マスあけと数式の前の二マスあけとの「優先順位」についてですが、数式や化学式、楽譜など「異質なもの」に移るときは、日本語文から離れるときですので、日本語文中の規則にはない「それぞれの特異な点字の日本語文中の書き方」が優先します。

「数学記号解説」では、句読点を省略しない書きの方が原則となっていますので、「記号の読み違い」の恐れ（多少の判断を要する場合があります）がなければそのまま書いておくことになります。

したがって、

円の面積は、□□（ハンケイ）×（ハンケイ）×3.14□で求めることができる。
がよい、ということになります。

なお、一般文章中に数式がでてきた場合、この例のように、短くて、前から順番に読んでいっても分かりやすい単純な式の場合は数式の形を取らないで、仮名で、

円の面積は、□ハンケイ□カケル□ハンケイ□カケル□3.14
と書くこともあります。

また、更に、長く複雑であったり、関係記号も含まれるような場合は、原文で行替えしていなくても、行替えして書くこともあると思います。

《Q36》

化学の問題の中にある一文です。

中和滴定・・・モル濃度 c [mol/l]、 m 価の酸の水溶液 v [ml] と、モル濃度 c' [mol/l]、 m' 価の塩基の水溶液 v' [ml] とを混合して、ちょうど中和点になったとすると、次の関係がなりたつ。この中の、「 m' 価」の表記を教えてください。

m 価 $\rightarrow$ ⠠m⠨⠠⠨ カ

m' 価 $\rightarrow$ ⠠m⠨⠠⠨⠠⠨ カ

最初の ⠠⠨ はダッシュ（プライム）、次の ⠠⠨ は第1つなぎ符？

③⑥ ③⑥ と続いてもいいのでしょうか？

『点字理科記号解説 暫定改訂版』の p 8 に、 α 線 β 線を α ⠠⠨ セン β ⠠⠨ センと表記されていたので、 m 価も m ⠠⠨ カ とできるのだろうかとも考えました。そうすると、 m' 価 は m ⠠⠨ ⠠⠨ カ とできるので問題ないようにも思いますが、一マスあけにするというような説明もなく、違和感です。

※ m 価の「価」は S 極の「極」などと同じ類だそうです。「S' 極」の表記も同じようにわからないところです。

《A》

算数・数学・理科の分野では、数式や化学式などの記号の終わりは、一マス（数式や化学式に関係符号が含まれていたり、数式や化学式中にマスあけが含まれている場合は二マス）あけます。

数式と言うと、 $2 + 1$ とか、 $x > y$ のようなものを考えてしまいがちですが、数字だけや一つの演算記号だけでも数式です。また化学反応式のような形になっていなくても「 $\text{⠠⠨⠠⠨⠠⠨} c$ ⠠⠨ 系の ⠠⠨ 物質」（炭素系の意味）のようになります。

このように、数や文字や符号など、専門分野の記号が一つだけのときも、「数式や化学などの記号」なのです。

ですから算数・数学・理科の分野では、 α ⠠⠨ セン、 β ⠠⠨ セン、 m ⠠⠨ カ、S ⠠⠨ キョクとなります。

『点字理科記号解説 暫定改訂版』p 8 の、 α ⠠⠨ セン、 β ⠠⠨ セン、 γ ⠠⠨ セン、p 43 の遺伝子型 A ⠠⠨ ガタ、O ⠠⠨ ガタ、AB ⠠⠨ ガタなどに例が見られます。

ご質問の m' 価は m ⠠⠨ ⠠⠨ カとなります。

ご質問の原本は、化学の問題集や参考書などと思われるので、算数・数学・理科の分野の専門書と考えて、点訳されてよいのではないかと思います。

一般書の中に、専門分野が入っている場合、原本の性質や目的を考慮して、方針を立ててから点訳をすることが大変重要になります。

数式の扱いではなく、一般書や国語や英語にも A、A'、A'' などとでてくる場合があります。その場合、③⑥の記号ではなく、ダッシュと仮名で書くことも考えられますし、点訳者挿入符などで断って、A 1、A 2 などと点訳することも考えられます。または、「A③⑥ ⠠⠨ は、A ⠠⠨ ダッシュを ⠠⠨ 表す」などと断って、用いることも考えられます。

この場合、算数・数学・理科の体系ではありませんが「A③⑥□ガタ」とマスあけします。第1つなぎ符を入れると③⑥③⑥となり他の記号（波線）になってしまいうからです。

《Q37》

『点字理科記号解説 暫定改訂版』（日本点字委員会発行）の「第4部 生物および地学の記号」 1.1 遺伝 の例文で、

イデンシガタワ□ $\begin{smallmatrix} \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \\ \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \end{smallmatrix}$ ○□ガタガ□ $\begin{smallmatrix} \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \\ \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \end{smallmatrix}$ ○ $\begin{smallmatrix} \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \\ \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \end{smallmatrix}$ ○□□ $\begin{smallmatrix} \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \\ \text{♯} & \text{♯} & \text{♯} \end{smallmatrix}$ A□ガタガ…
とあります。

通常文章では、血液型は、 $O_{\text{ガタ}}$ です。遺伝子型だから「つなぎ符」が不要なのか、理科記号だから不要なのか、ボランティアの方にどう説明すればよろしいでしょうか。

《A》

理数関係の分野では、数式や化学式などで使われる要素と、一般の日本語体系との間を明らかに区別します。そのために一マス、あるいは二マスあけて書きます。

ですから、血液型を書くときも、一般文章中では「 $\begin{smallmatrix} \text{三} & \text{三} & \text{〇} & \text{二} \end{smallmatrix}$ ガタ」、「 $\begin{smallmatrix} \text{三} & \text{三} & \text{A} & \text{二} \end{smallmatrix}$ ガタ」と書きますが、理数関係の専門分野では「 $\begin{smallmatrix} \text{三} & \text{三} & \text{〇} & \square \end{smallmatrix}$ ガタ」「 $\begin{smallmatrix} \text{三} & \text{三} & \text{A} & \square \end{smallmatrix}$ ガタ」とマ
スあけして書くことになります。

『点字理科記号解説暫定改訂版』p8には、「 α □ セン、 β □ セン、 γ □ セン」の例も載っています。

なお、前出の《Q36》も参照してください。

ご質問に対するお答えとしては、「この用例は、理数関係の専門分野なので、マスあけてあります。血液型は、一般文章中では、第1つなぎ符を用いて書きます」となります。

第5章 書き方の形式

その1 本文の書き方

《Q38》

「行替え・行移し」の「処理2」の解釈の仕方をお訊きいたします。

例えば、

彼は、「それは名案だ」といった。

などのように、主語の後ろに会話があり、次行の行頭に「と」とあるような文で

も、会話の後ろで行移しをし、行頭1マス目から「と」と書いてもいいのでしょうか。それとも、頭に主語があるのであれば、一つの文と考えて、「と」は行移しをせずに続ける方が良いでしょうか。

《A》

「表記法」p79 第4章第6節の1. のルールでは、「カギ類で囲んだ会話文や引用文を「と」などの助詞で受ける場合は、行を替えても、行頭の一マス目から書き表す」とあり、用例を見ても、独立した会話文を受けている場合と考えられます。

本来、ご質問の用例のような場合は、行を替えないでカギを閉じた後に続けて書くのが一般的な方法で、この書き方は、墨字の書き方としても正しい書き方とは言えないと思います。

しかし、出版されている本にもいろいろな本がありますし、イラストや写真などが多い本では行の長さが1行ごとに変化していたり、著者のくせなどもあることが考えられます。

点訳では、原本の意図やレイアウトを考慮して、判断する必要があります。

そこで、「てびき」p94の<処理2>では、「～「と」などの助詞が書いてある場合は、一マス目から書いてよい」という表現になっています。

イラストとの関係や視覚的なレイアウト上、「と」から行を替えて書いてある場合には、点訳では、カギを閉じた後に続けて「と」と書いてよいと思います。

視覚的なレイアウト上の意図が考えられず、その本全体を通して「と」から行を替えて書いてあるような場合には、原本の通りに点訳してよいと思います。

《Q39》

行末処理について、行末10マスを目安に処理をしておりますが、助動詞の前は読んでいて気持ち悪いとおっしゃる利用者がいます。普通の蔵書製作では必ず行末処理をしなければならないのでしょうか。試験の時は、行末処理も採点に関係すると伺いましたがいかがでしょうか。

《A》

行移しは、基本的にはパソコン点訳の自動行末処理に任せて行います。ただ、行末があきすぎる場合には、「てびき」p94の【備考】に従って行うことができます。

実際には、【備考】(1)の「本来続けるべきカッコ類や点訳者挿入符の前、および波線の後ろ」に限って行っているところが大部分のようです。

(2)～(4)で行われるのは、やむを得ない場合でしょう。

蔵書製作にあたって必ずその処理をしなければならないということではありません。しかし、行末があまりにあいていると、読んでいてそこで違和感を感じる方もおられるようです。

また、点訳書全体のレイアウト上、そこで1行増えることによって、巻末が奇数ページに1行だけはみ出てしまったり、表の閉じ枠がそのページに入らなくなったりということが生じることもあります。そのような場合に、カッコの開き記号の前や波線の後ろで行移しをすることもあります。

「試験」が何をさしているのか分かりませんが、点字技能師試験や点字指導員認定試験であれば、行末処理が採点に影響することはないとのことでした。

そのほかの試験については申し訳ありませんが、お答えできるような情報を持っておりません。

その3 詩歌・戯曲などの書き方

《Q40》

書き出し位置に差がある詩（下記参照）の書き方について、ボランティアから次のような質問がありました。

質問：下記のような詩を点訳する場合、単純に書き出し位置の違いどおり、5・7・9…と差をつけて書いていいのでしょうか。それとも、そもそも書き出し位置に変化をつける必要があるかどうかから判断しなくてはならないのでしょうか。書き出し位置に変化のある詩は、本来その差そのものに意味があるように思うのですが…。

ボーンの郷(さと)

市原 千佳子

生まれるボーンはBORNと綴る
骨のボーンはBONE
一字ちがいのボーン
はじまりのボーンには 君は泣き虫で
おしまいのボーンでは
君のまわりが泣き虫になった
・ ・ 火葬場まで。
この世の旅とは
かるく運転手に告げて終着するらしい
どこかの柱でも古時計が
チクタク チクタク ボーン ボン。
打ち終わる
チクタク消化しつづけた腹腔(ふくくう)で
針と振り子はもはや交差しない
静止という死

静止の外では
木魚のリズムが休みなく海をよぶ
君のたましいを乗せて
木魚のウロコが西へギンギラギラ
運ぶよ 始まるよ
ニライカナイのボーンの郷で
誕生祭

ボーンの郷は
生まれるときに掻き消され
死ぬとき立ち現われる。たましいが
四十六億歳の母のふところに帰るので

※()内は原文ではルビに当たります。

※いちはら・ちかこ 1951年生まれ。今年、詩集「月しるべ」(砂子屋書房)で丸山豊記念現代詩賞。

※原文は朝日新聞土曜版文芸批評欄「あるきだす言葉たち」に掲載

《A》

詩は、原文の書き出し位置に差がある場合、原文に従うことを原則にします。

この詩も、書き出し位置の変化に意味があるように思われますので、変化を付けるのがよいと思います。

下げて書いてある連のなかで、「静止の外では」「君のたましいを乗せて」「運ぶよ 始まるよ」「誕生祭」の始まり位置が原文では少しずつ異なっていますが、これはセンタリングの意味もあるのではないかと思いますので、点訳ではこの4行の書き出し位置を同じにしていいたいのではないでしょうか？

点訳してみますと、この詩は1行が点字で2行以上にわたることはありませんでした。

そこで、行の初めから書いてある連は、行頭3マス目から書きます。

「静止の外では」の連には、書き出し位置に差がありますので、「静止の外では」と「木魚のリズムが～」の書き出し位置に4マスの差を付けるのがよいと思います。

「静止の外では」を9マス目から、「木魚のリズムが～」を5マス目から書いてはいいかがでしょうか？

ただ、詩集の場合は、このように原文に準じて書きますが、本文の中に詩が1編、引用されているような場合は、書き出し位置の違いが、原文の見出しと紛らわしくならないか注意することもあります。

紛らわしくなる場合は、書き出し位置に差があることだけを示す書き方もあると思います。

この詩の場合は、「静止の外では」の連をすべて5マス目からに統一する書き方でもいいかもしれません。

その4 図や表の書き方

《Q41》

図表が2つ連続する場合の枠線の書き方について、迷っています。

※図表を1つ1つ枠線で囲む

※2つの図表をまとめて枠線で囲み、図と図の間は1行あける

※2つの図表をまとめて枠線で囲み、図と図の間は区切り線を使用する

以上3つの方法が出ているのですが、どれが一番最適でしょうか。

それとも、施設ごとに決めてよいのでしょうか。

《A》

「てびき」では、「表は段落の切れ目に入れ、本文との区別を明らかにするために、枠線で表の始まりと終わりを囲んで書く。あるいは、表と本文の間を1行あけるか、線を引くなどして書くことができる」としか言っていないので、二つの表が連続する場合については、ルールがありません。

また、「表記法」や日盲社協点字出版部会の「製作基準」などにも特にルールはありませんので、各施設・団体に決めていただいてよいところです。

以下は、点訳委員会委員のなかで合意できた範囲のお答えです。ご了承ください。

上記の「てびき」の記載から、一般的に、図表は段落の切れ目に一つずつ枠で囲んで入れるということになります。

ただ、二つ以上の図表が連続している場合や、内容に連続性がある場合は、二つ以上の図表をまとめて枠線で囲むことはできると思いますし、現実に行われています。その場合、二つの表の間を行あけにするか区切り線にするかは、各施設の方法によって構わないと思います。ただ、二つの表の区切り目であることがはっきり分かる方法を取る必要があります。

特に行あけにする場合、一つの表の中の行あけなのか、二つの表の間の行あけなのか区別がつくようにしなければなりません。

1冊の原本の中に、一つ一つ枠で囲んだものと、二つまとめて囲んだものが混在しても構わないと思います。表の連続性などによる違いと判断できればよいのではないのでしょうか？

ただ、二つの図表の間を行あけにするか、区切り線にするかは統一した方がよいと思います。

連続している図表でも一つ一つを枠で囲む方法のメリットとしては、

① 枠の中に必ず一つの図表なのでレイアウトがすっきりする。

一つの枠に二つ以上の図表が入ると、見出し、点訳者挿入符、原本の注、出典などが、繰り返し入ることになります。レイアウトに工夫しないと分かりにくくなる場合もあります。

② 枠線を探していけば、必ず図表の始まりが分かるので、検索性に優れている。二つ以上の図表が一つの枠に入っていると、二つ目の図表は探しにくい。

一方、デメリットは、上の図表の閉じの枠線と下の図表の開きの枠線が2重になるので、1行、場合によってはそれ以上無駄になる。

また、図表が巻末に幾つも続いたり、見出しの最後にまとめて載っていたりする場合は、必ずしも、始まりと終わりを枠線で囲む必要はありません。区切り線を入れるか、行あけをして、図表のページの始まりと終わりが分かるようにすればよいと思います。

図表の書き方には、他にも注意すべきことや悩むことが多くあります。現在、編集集中の「点訳のてびき第3版指導者ハンドブック 第5章書き方の形式編」が、少しでも図表を書く際のお役に立てればいいのですが・・・。

その6 本文以外の割り付け

《Q42》

原本（小説、文庫）には見出しがまったくありません。もちろん目次もありません。しかし、巻末に、あとがき・解説・作家の年賦・著者紹介などがあります。これらは見出しとして取ることができます。このような場合、点訳にあたって、点訳書の目次はどのように扱えばいいか。

考えられる方法としては、

① 原本どおり目次は作成しない。

② あとがき・解説などは見出しに取ることができるし、また、その箇所を探して読めるようにするためにも、最終巻にのみ目次を作成する。

③ 基本的には②と同じ考えですが、1巻目にあとがきなどの目次を作成する。などがあると思いますが、どれが適切な方法か判断がつきません。

このような場合、どのように処理するのが適切なのでしょうか。

《A》

標題紙・目次・奥付は点訳書独自のものですので、ご質問のような場合の処理は、各施設・団体に判断されていると思いますが、ご参考までに「てびき」から考えられる一般的な処理を記してみます。

原本に見出しがなく、目次もついていない場合は、本文の前後に、献辞や登場人

物、あとがきや著者紹介などがあっても、点訳書でも目次をつけないのが一般的ではないかと思います。

今回ご質問の原本の場合も、目次をつけなくても差し支えない範囲ではないでしょうか？

特に、ご質問の原本は「小説」と言うことですので、本文が終わった後に、あとがき、解説、年譜、著者紹介などが付いているのは、特別なことではなく、自然の流れで読めていくと思います。

ただ、「巻末に、あとがき・解説・作家の年譜・著者紹介など」とありますので、もっと他にもいろいろ項目があって、本文を読み進むのに、後ろの資料も参考にした方が読解に便利などの理由で、読者にそのページを知らせた方がよいと考えられる場合には、最終巻にだけ目次を入れるという方法もあるかもしれません。

その場合、点訳書独自の留意事項ですし、最終巻に目次がついていることを、初めに読者に知らせた方が親切ですので、第1巻の最初に「点訳書凡例」をつけるのがよいのではないのでしょうか。

点訳書凡例で、「最終巻には、～などがついていますので最終巻にだけ目次をつけました。」と断れば、読者に分かりやすいと思います。

または、あとがきなどの項目とページを点訳書凡例に入れてしまって、目次はつけないという方法もあるかもしれません。

本文が終わった後に、「資料集」のような形になっている場合もありますが、そのような場合は、「資料」が始まるところに、目次をつける方法もあると思います。

いかがでしょうか？

《Q43》

奥付の電話番号の表記について教えて下さい。出版社の電話番号が複数ある時の表記の方法です。

番号を羅列して書く場合、

- ① デンワ□ 1 2 3－4 5 6 7 (ヘンシュウ) □ □ 9 8 7－6 5 4 3 (ハンバイ)
- ② デンワ□ 1 2 3－4 5 6 7 (ヘンシュウ) □ 9 8 7－6 5 4 3 (ハンバイ)
- ③ デンワ□ □ 1 2 3－4 5 6 7 (ヘンシュウ) □ □ 9 8 7－6 5 4 3 (ハンバイ)

上記3つのマスのあけ方で、どれが一番正しいのでしょうか？

また、上記のように電話番号を羅列する場合は「てびき」に記載されている二マスあけの条件に当てはまるのでしょうか？

《A》

例示された3つの書き方は、どれも間違いとは言えないと思います。

二マスあけの要件にあてはまるかどうかということで考えると、「てびき」 p 99 (2) (ア) でいう「別の要素」には当てはまらないと思いますので、このように、

電話番号を第1つなぎ符を用いて一続きに書き、しかも中にマスあけがない場合は、電話番号と電話番号の間は、一マスあけでもいいと思います。

ただ、並列の場合、マスあけだけで処理しないで、中点や読点を用いる書き方もあります。

また、(書籍販売部)のように間にマスあけが含まれる場合も多いので、二マスあけにするという書き方もあると思います。

「電話」の後のマスあけについては、電話だけを取りだして、小さな見出し扱いにする場合は二マスあけになります。

「てびき」のp138、p140の【例1】と【例2】を参照してください。【例1】では、製作館、電話、製作完了、・・・を小見出し扱いにしていますので、それぞれ後ろを二マスあけています。【例2】では、電話番号は、発行所や製作の小見出しの中に含まれる項目として扱っていますので、一マスあけにしています。

ですので、「電話」の後ろのマスあけは、前後の関係で決めてくださるようお願いします。

その他

《Q44》

『「サピエ図書館」登録点字文書製作基準』の中の、p4(4)の中に、「奥付が1ページで終わった場合は、裏ページの最初に改行マークを一つ入れます。奥付が2ページになった場合は、最後に改行マークを入力します。」とありますが、改ページマークでは？と思いましたが・・・「裏ページの最初に改行マークを一つ」と書いてあるので・・・教えてください。

《A》

「サピエ図書館」にアップするデータは偶数ページで終わるように作成するようにお願いします。

最後のページに改ページマークを入れますと、データの終わりは次のページ(奇数ページ)になってしまいます。

試しに、最後のページに改ページマークをいれ、任意のページから最後のページにジャンプを実行してみてください。すると、改ページマークを入れた次のページにジャンプします。これでは、そのデータが奇数ページで終わっていることになってしまいます。

このようなことから、奥付の最後(偶数ページ)には、必ず「改行マーク」を入れるルールになっています。

全国的に、数多くの種類のプリンターが使用されていて、1ファイルが偶数ページで終わっていないと、連続印刷に支障が生じるプリンターもあるということです。

《Q45》

点字の繰り返し記号（「リ」下がり）について教えていただきたいのです。

学生の頃、自分で点字を書くとき、よくこの記号を使いました。私を含め古い視覚障害者はこの記号をよく知っているようですが、若い方はおそらくほとんど知らないのではないかと思います。

『日本点字表記法2001年版』を見たのですが、点字記号一覧などを見ても、どこにも出ていません。ということは、この記号は正式な記号としては認められていないものなののでしょうか。

私は、点字出版されている本の中で使われているのを見て、自分でも使うようになった記憶があります。点字出版界の間だけで使われている記号なののでしょうか。そもそもこの記号は、何時頃からどのようにして使われるようになったのか、そして、現在でもまだ広く使われているものなのか。日点委ではこの記号についてどう考えているのか。この辺りのこと、もし教えていただければ幸いです。

《A》

昼語符が、符号として最初に見られるのは、1911年（明治44年）5月20日に文部省が出した『日本訓盲点字説明』です。「綴り方ノ例」の中に「オヤドリガ コココト ナイテ イマス ヒヨコガ ピヨピヨピヨト ナイテ イマス」があり、「ココココ」「ピヨピヨピヨ」のところを「ココ+リ下がり」「ピヨ+リ下がり+リ下がり」という書き方が示されています。

日本最初の『日本訓盲字』（1890年12月）には見あたりませんが、日本の点字が制定されて約10年の間には使用されるようになったようです。

ただ、点字出版の世界では、積極的に使用していた出版所があった反面、全く使用しなかったところもあったようです。また、一時、日本語の疑問符として「ラ下がり」を用いるか「リ下がり」を用いるかの意見の違いなどともあいまって、戦後激しい論争があったようです。

日本点字委員会が発足してからの変遷は、『日本点字表記法現代語篇』（1971年3月発行）には、くりかえし符号（濁音・半濁音になる場合にはリ下がりの前に、それぞれ5の点、6の点がつく）があります。

『改訂日本点字表記法』（1980年2月発行）では削除されています。

『日本点字表記法1990年版』（1990年11月発行）では、「付加記号」の中の「2特別な用途に用いる付加記号」に「教科書や公文書などの公式な文書には用いないで、一種の略字として特別な用途に限定して用いる」記号として復活しています。用例も、「山々」「国々」「頻々」があり、それぞれ、リ下がり、5の点+リ下がり、6の点+リ下がりが用いられています。

『日本点字表記法2001年版』（2001年11月発行）では、削除されました。

このように、現在では、点訳図書、教科書や公文書など、公式には用いられてい

ませんが、私的な手紙や記録、メモにはまだまだ使用されている方が多いようです。伺った範囲では、ある程度以上の年齢の方が使用されており、30歳台の方は使用されていませんでした。

積極的に使われていた、ある点字出版所でも、1990年代から次第に少なくなり、現在では、オリジナル出版の1タイトルのみを用いているそうです。ただ、以前に発行されて改版されていない本には、まだ残っているとのことでした。

この記号は、外国語引用符の開きと同じ形です。

現在、「芸no人」「凡play」「赤wine」「名speech」などを表すときに、仮名と外国語引用符の開きの間は何もはさまずに続けて書きますが、畳語符が残っていると「ゲイゲイツタンジン」「アカアカソオツラン」などと読む恐れもあったわけです。

ただ、個人的に使用されている方は、この記号は早くメモを取るのにとても役立つかと話しておられました。